1.2 MODERN GARDENS：35

1･2･1 Shigemori Mirei (重森 三玲) ： 24 Gardens

No. 66-1 Tōfuku-ji (東福寺) Honbō Gardens	
Year: 1939 Designer: Shigemori Mirei	Address: Honmachi, Higashiyama-ku, Kyoto Web: http://www.tofukuji.jp/english/index.html

東福寺本坊には建物を囲んで南、西、北、東に四庭がある。それらを総称した庭園名は「八相の庭」と云う。

Southern Garden

四神仙島の石組（左より方丈･蓬莱･瀛州･壺梁）。枯山水であるため護岸が不要であり、芸術的造形本意の庭。立石と横石による空間構成は禅の精神を抽象的に表した重森の出世作。古来の石組みは池泉庭園のために、護岸のための石組みが主体であったが、この庭は水のない枯山水庭園のため、護岸構成から自由になり、造形性を主体の革新的な創作庭園。

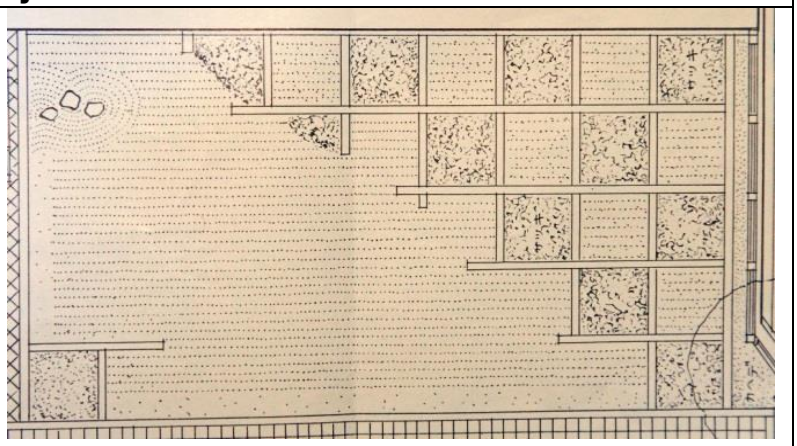
立石と横石の組み合わせで、自然を単純化し、インパクトのある人工造形を再構成した。

手前には厳しい石組みがあるが、奥には柔らかな苔の造形で好対照。、芸術的な庭園は自然界には無い構成にした。

京都の五つの禅宗宗派を象徴し、五つの小山にした。直線は自然界には無い人工の造形とし芸術的庭園の証とした。

No. 66-2 Tōfuku-ji（東福寺）Honbō Gardens

Western Garden：重森はピットを作って躑躅を植え、白砂と同じレベルにした。花が咲くと白とオレンジ、散ると白と緑になる。



設計図と写真からも解るように、従来の庭の概念を払拭するものであった。更に庭園に色彩を取り込んだのである。

Northern Garden：廃材を活かした

苔と切石による格子状の模様は従来の日本庭園には無かった斬新な庭。この切石は「勅使門」に敷かれていたのであるが、そこに庭園が造られたので、不要となった石材を使用して独創的な庭にした。

Eastern Garden：廃材を活かした

禅寺に於いては「総て無用なものが無い」との考えに基づいて、便所の束石であったが、類例のない造形を生み出した

No. 67 Kōmyō-in (光明院) Temple Garden

Year: 1939 Designer: Shigemori Mirei	Address: 15-809 Honcho Higashiyama-ku Kyoto City Tel: 075-561-7317

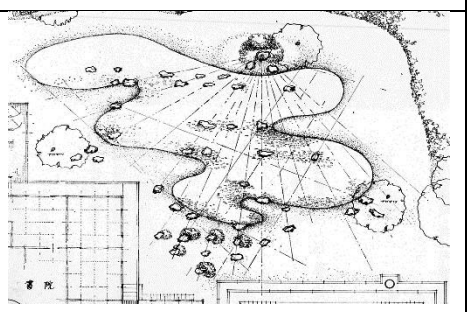
家庭的な雰囲気の優しい庭。光明を発する三尊石が 3 箇所あるため、観音菩薩の光明の発するラインに囲まれた領域が出来る、特殊な地割である。

洲浜を象徴する海岸線は、本来雄大な池庭に造られていた。しかし、重森は白砂を敷いた極端に小さな海洋風景を象徴的に作った。美しい曲線の中に自然石を自由に配布し「重森の自然」、「第二の自然」、「超自然」を再構築した。【See Garden No1 Tōin (8P) Garden No4 Mōtsu-ji Temple (11P)】

配石は下の写真のように三尊石の主尊から発する光明線上にある。

上下に直線状配石

斜めに直線状配石



三箇所の観音が発する光明線

No. 68 Onohara-ke (斧原家) Family Garden

Year：1940 Designer: Shigemori Mirei	Address: Hyogo Pref. Private

“Kyokusui Garden” 狭い土地に大自然の風景を抽象して再現した。重森はこれを芸術と考えた。書院を移動すると、手前の洲浜上に植えた 5 本の松を通して、背後の石組みが動いて見える。

2 階のベランダより

二本の洲浜の奥には簡単な築山があり、そこに石組がされている。

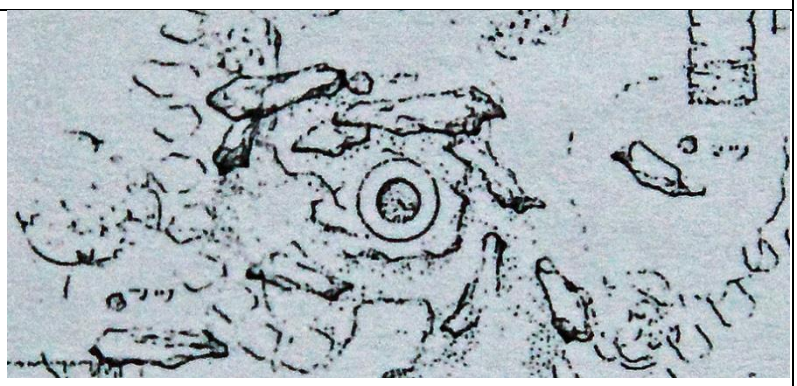
柔らかくデザイン化した洲浜の奥に、動いて見える石組があり硬軟の競演

No. 69 Inoue-ke (井上家) Family Garden

Year: 1940 Designer: Shigemori Mirei	Addres: Ōsaka CIty Private

“Kosekiko Garden” 蹲踞に特化した露地。石組はコロシアムのように、中心の蹲踞に収斂する。

螺旋形を描きながら蹲踞に収斂する

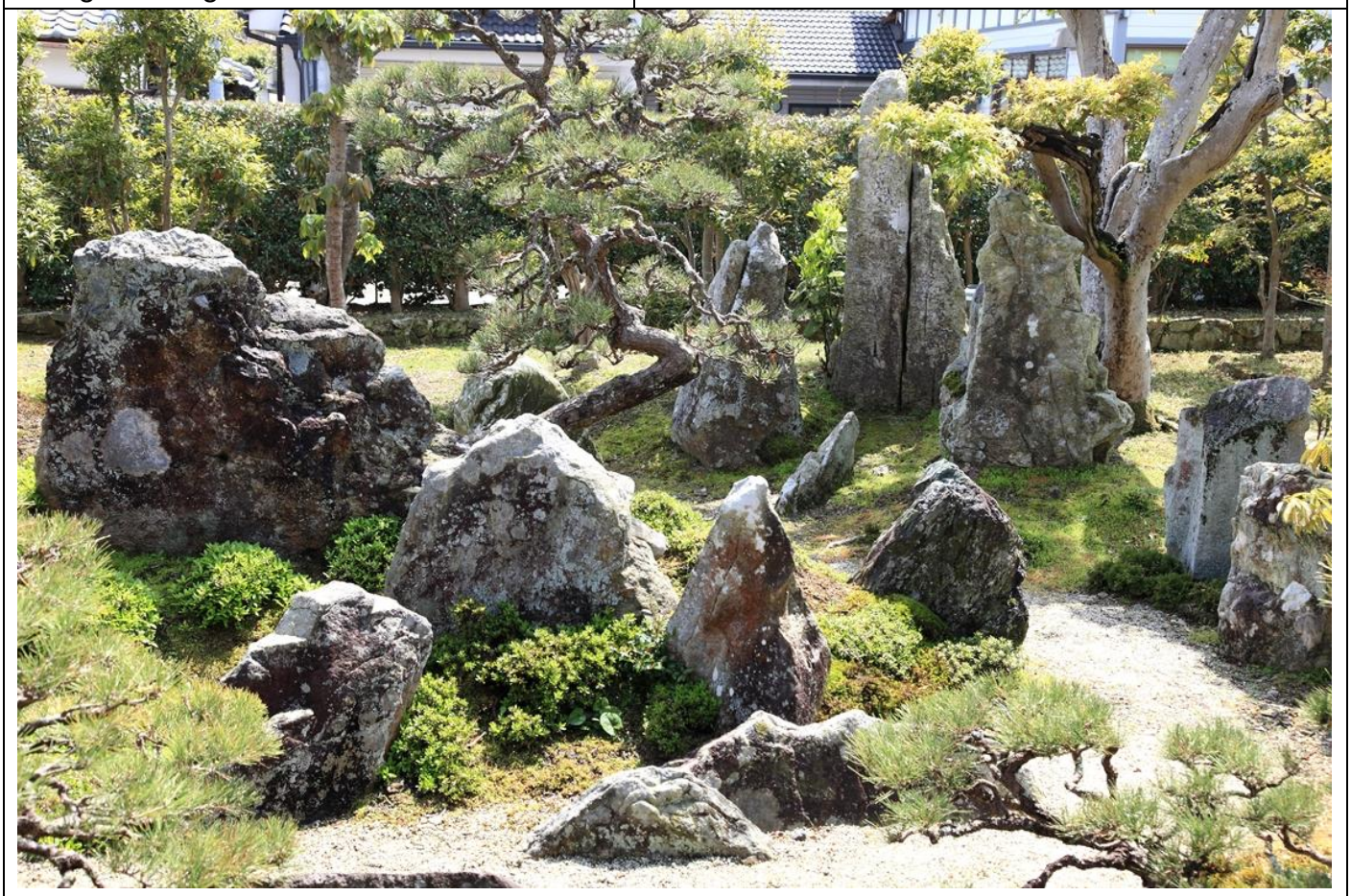


設計図からもダイナミックな造形が解る

蹲踞を背後から見る鋭利な稜線と、荒々しい破断面は重森が好んだ造形だ。

No. 70 Murakami-ke (村上家) Family Garden

Year: 1949 Designer: Shigemori Mirei	Address: Hyogo Pref. Private



“Kyokusen-sansō Garden” 平地の庭であるが石組を幾層にもして、立体造形性を与えている。庭のテーマは蓬莱山石組（左）と龍門瀑石組（右奥）。

明快な三尊式龍門瀑：三尊石組の大きさに対して鯉魚石が小さく好対照

庭に面した切石延段

玄関に向かう青石延段

No. 71 Ogura-ke (小倉家) Family Garden	
Year: 1951 Designer: Shigemori Mireri	Address: Kibichuō-chō Okayama Pref. Private

“Kyokutō Garden”庭園の背後には美しい自然がそのまま残っている。一方、板塀の内側には中国の道教思想に由来する仙人の住む島々が海洋に浮かんでいる。自然界と人工界の造形を拮抗させ、人工界の造形を際立たせた借景の庭。

左の島が亀島、右の島が鶴島（鶴の羽を苔地で表現）、奥が蓬莱島.

龍安寺と重森 重森は村上家、桜池院、興禅寺などで龍安寺との関係性がみられる。	 龍安寺	 龍安寺の蓬莱山	 小倉家

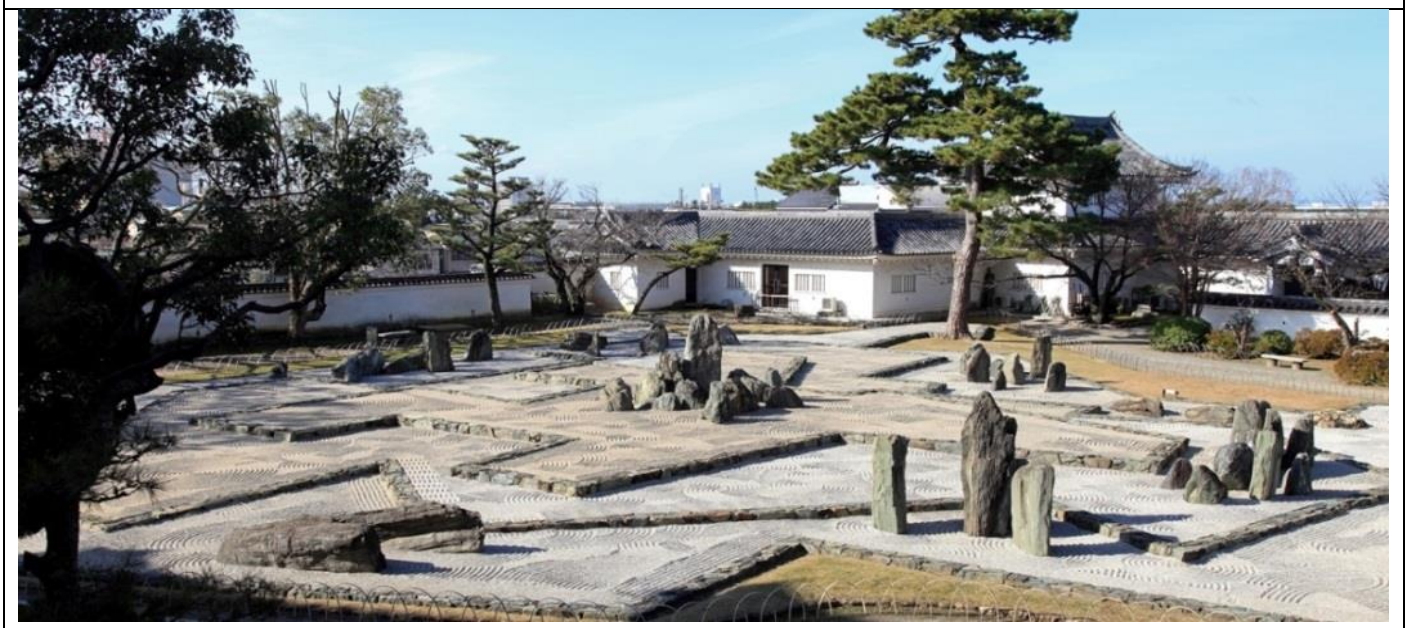
No.72-1 Kishiwada-jō (岸和田城) Castle Garden

Year: 1953	Address: Kishiwada City Osaka Pref.
Designer: Shigemori Mirei	Web: www.city.kishiwada.osaka.jp

天守閣から見る "Hachijin Garden"

中央の大将陣周辺には伝統的な古来の手法で八つの陣を象徴的に石組みしたが、城郭を象徴した簡素なデザインに目を奪われ、石組が陳腐にさえ思える。

重森がヨーロッパ抽象主義のカンデンスキーやマチス、モンドリアンに傾倒した影響が色濃く表れている。従来の伝統を超えて新たな伝統を生んだ。



中央の大将陣を 8 つの陣形が守るように配置している。周辺の陣形は互いに独立しているが、互いの陣形はは兄弟であり、中央の大将陣とは親子関係である。各石組は分散していながら統合されているのは、テーマの選択による。石組間の屈曲線はヨーロッパ抽象主義の影響があるが、日本古来の石組とは違和感なく調和している。

No. 72-2 Kishiwada-jō (岸和田城) Castle Garden

鳥陣越しに大将陣や蛇陣を望む重厚な石組み

手前の陣を見ながら周遊すると、近景、中景、遠景にある石組みが形成する立体造形が連続的に変化する。このような多視点の庭は他には類例が無く、その意味でも重森の傑作庭園である。

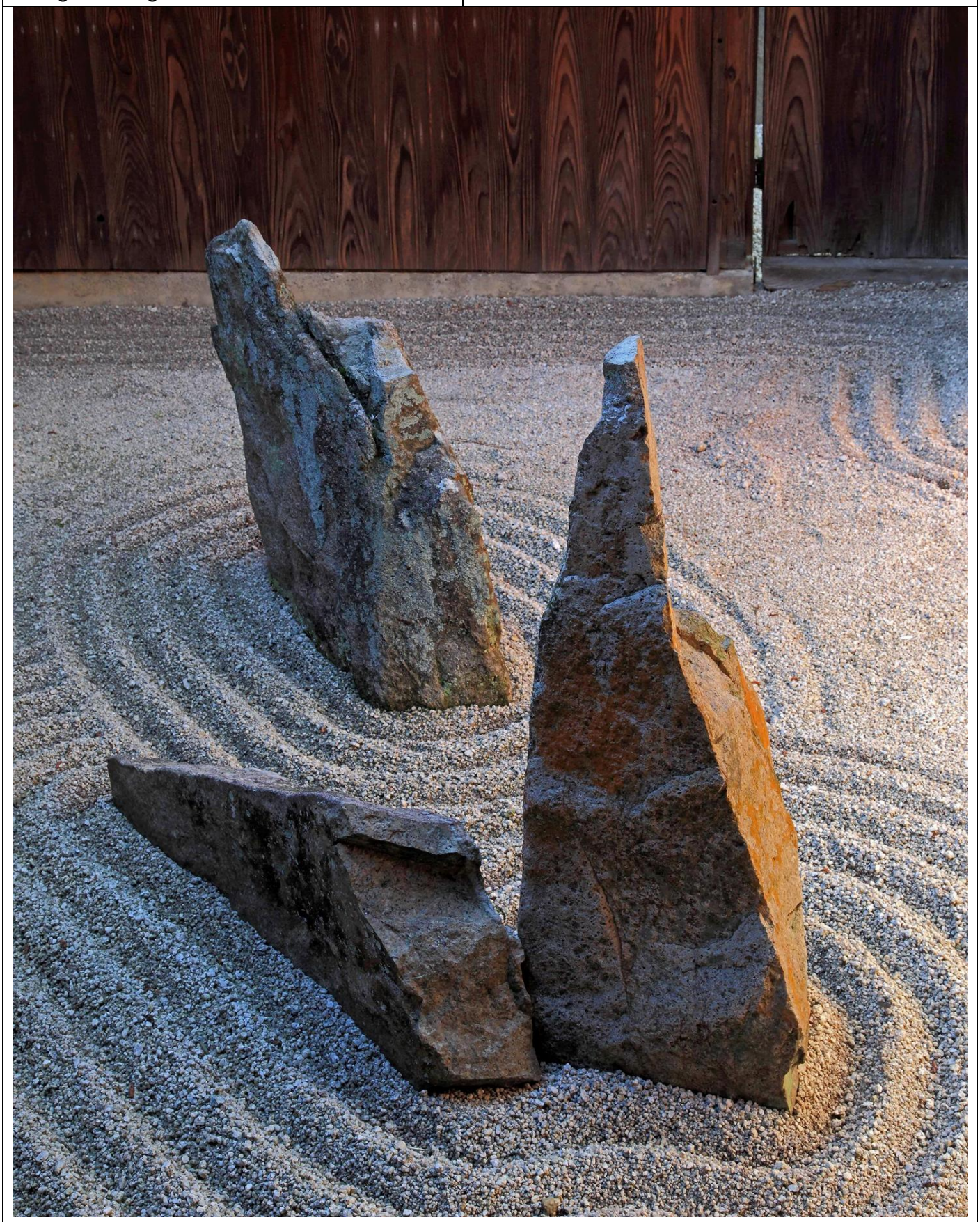
視点を移動しながら、龍陣越しに各陣の造形と併せて観ると造形が変化する

虎陣越しの景

風陣越しの景

No. 73-1 Maegaki-ke (前垣家) Family Garden

Year: 1955 Designer: Shigemori Mirei	Address: Hiroshima Pref. Private



たった三石による壺庭であるが、重森の最高傑作だ。この造形の特徴は

・何ものも象徴していない完全な抽象造形

・稜線の鋭い石と欠損部のある石の選択が、この庭を不朽の名作にしている

・三角錐状の尖った石同士は関連させて直角に置かれ、一方、奥にある動物の様な石あらぬ方向に行くようで、行かないような不思議な感じだ。

No. 73-2 Maegaki-ke（前垣家）Family Garden

Year: 1955 Designer: Shigemori Mirei	Address: Hiroshima Pref. Private

“Jyuen Garden” 中央にある縦と横に組まれた造形は石組みの手本と云える。

その理由は

・欠損部のある2石の横石の選択（重森は施主所有の山で何度も石を探した）

・シャープな切り口や欠損部のある4本の立石の選択

・手前にある小さな石は庭に奥行きを与え、背後の石を大きく見せる逆遠近法効果

・背後にある巨石の石組は既存の平凡な石であるが、そこに手前にある尖った石と類似の石を入れることで、手前の造形と関連が出来、全体の一体感が構成される。

軒下に作られた洲浜の造形は、もはや自然にはあり得ないデザインに昇華

この極端な繰り返しパターンの造形は、鑑賞者と庭園の一体感が得られるため、後世の個人宅庭園の基本構造になった。

No. 74 Zuiō-in (瑞応院) Temple Garden

Year: 1956	Address: 4-50-50 Sakamoto Ōtsu City Shiga Pref.
Designer: Shigemori Mirei	Tel: 0775-78-0232 (Reservation Required)

“Rakushi Garden” 中央の阿弥陀如来と菩薩や眷属が「臨終に間に合うように雲に乗って救済に来る物語」を視覚化した造形である。自由に組まれた石組みと隆起する雲紋が躍動する造形になっている。

手前に観音菩薩と勢至菩薩の立石があるため、書院を移動すると背後の石組みが一斉に動き出す。重森はこのように錯覚を応用して庭園を作った。

切石による延段の雲紋は平面的であるが、苔地の雲紋は立体的で、躍動する石組と調和している。

観音菩薩石組局部

勢至菩薩石組局部

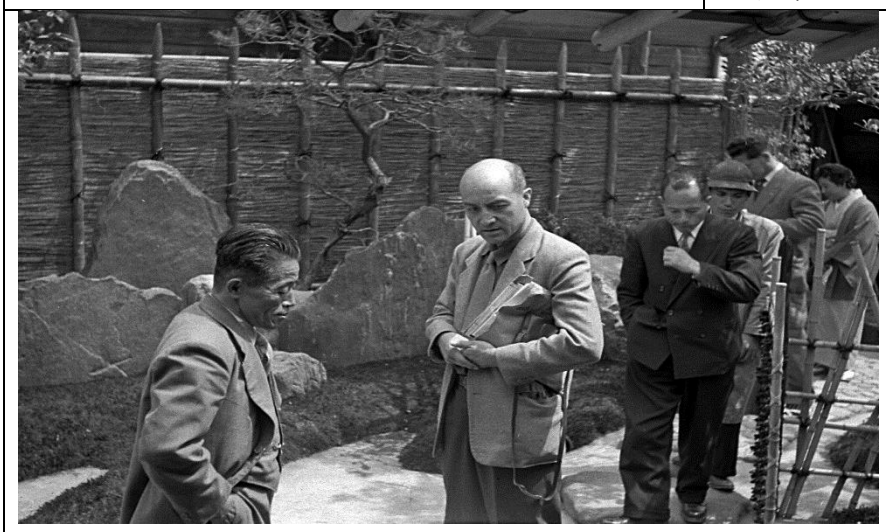
No. 75 Ochi-ke (越智家) Family Garden

Year: 1957 Designer: Shigemori Mirei	Address: Ehime Pref. Private

自然界には存在しない、多角形にした人工造形の延段。

“Botan-an Garden” 立ち蹲踞

越智家の切石は桂離宮にヒントか



Shigemori is Talking with Isamu Noguchi at Tea House Garden.

“©The Isamu Noguchi Foundation & Garden Museum’New York；gift of Nobuo Ochi„

越智家にて
パリのユネスコ庭園の石の採取の際に越智家、保国寺，阿波国分寺などでも講義した。

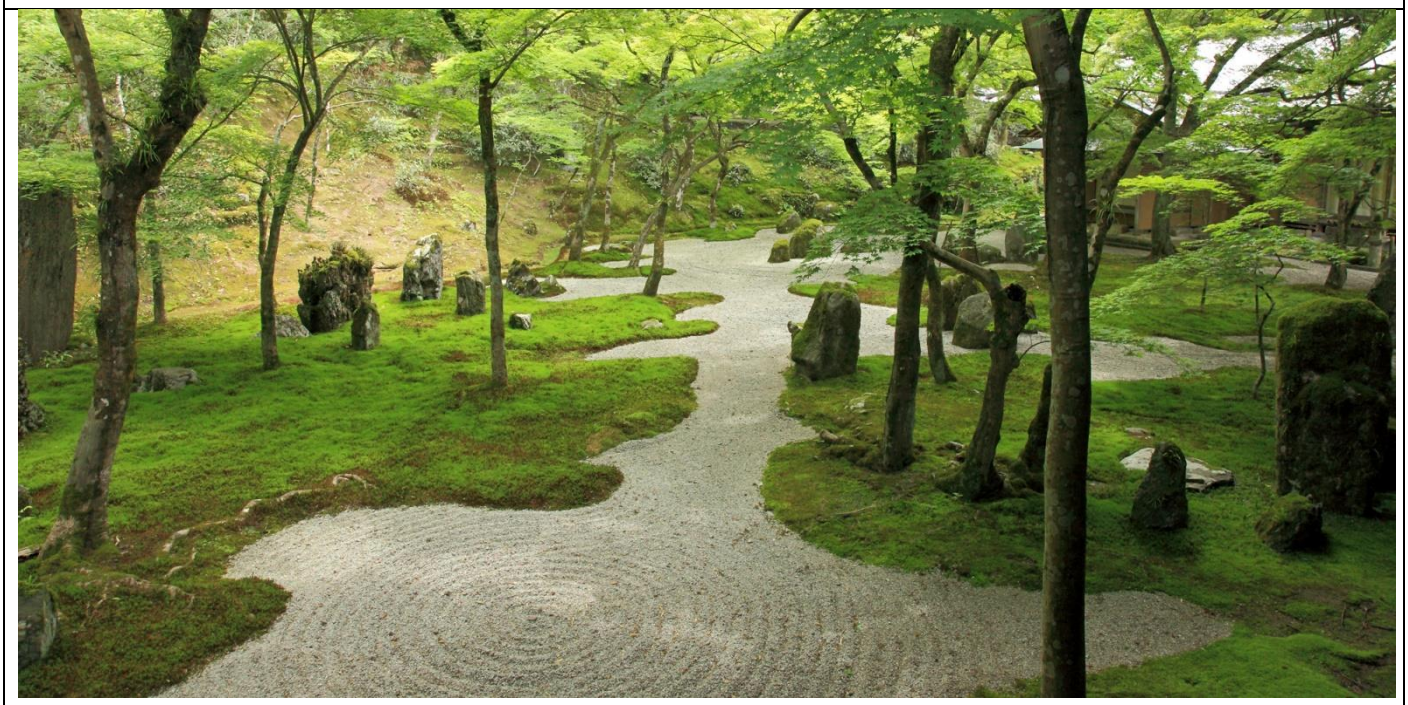
No. 76 Kōmyōzen-ji (光明禅寺) Temple Garden

Year: 1957 Designer: Shigemori Mirei	Address: Dazaifu City Fukuoka Pref. Tel: 092-922-4053

聖一国師円爾が中国から帰朝して創建した寺である。山畔が迫ってくる広大な敷地に、苔による洲浜を周囲にめぐらせている。海洋を表す白砂には檀家から寄進された石が岩島のように散在している。重森らしい個性的な石組は少ないが、石組と樹木が混然一体となった考えさせる庭で、重森の庭の幅広さを示す。新緑や紅葉の季節は大変美しい。

「光」の字形の配石であると同時に、三尊石かつ七五三石組

白砂、苔地の洲浜とモミジの緑の奏でる緑陰が我々を静寂の世界に引き込む



重森がこのような静かな庭を作ったとは驚きである。重森庭の新たな発見だ。

No. 77 Kuwata-ke (桑田家) Family Garden

Year: 1959 Designer: Shigemori Mirei	Address: Hiroshima Pref. Private

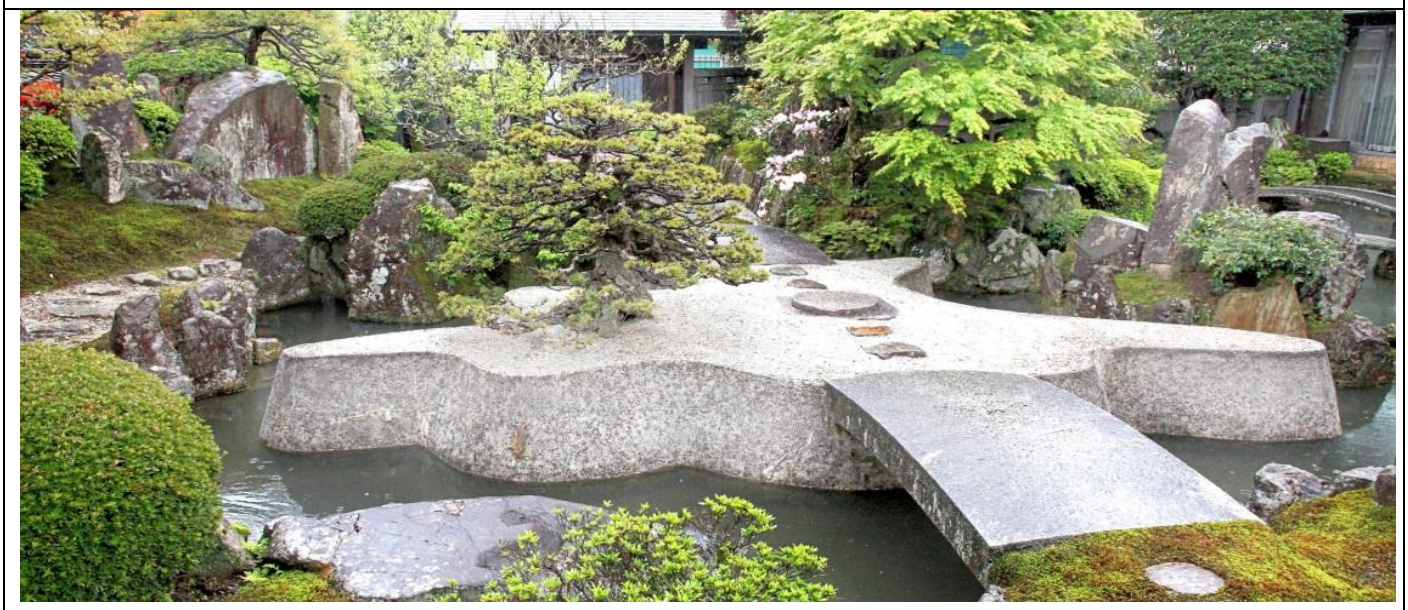
“Sōgen-an Garden” 庭園を貫く長方形の石と交差する白セメントの造形（廊下側が書院）

純な石材であったが、その稜線を鑿で削り落とし荒々しい表情に一変させた

No. 78 Murakami-ke (村上家) Family Garden

Year: 1959 Designer: Shigemori Mirei	Address: Shimane Pref. Private

“Sansenkyō Garden” 重森が自分で選択しなかった石で作庭した稀な例である。作家は自分の感性にあった石を選択して造形のイメージを作るからだ。しかし当家では既存庭園の石と新たに山から掘り出した石が多数用意されていた。重森は悩んだ末に、古典的なあらゆる手法を駆使して造園した。一方その鬱憤を払拭するかのように、斬新で独創的な造形を生み出した。



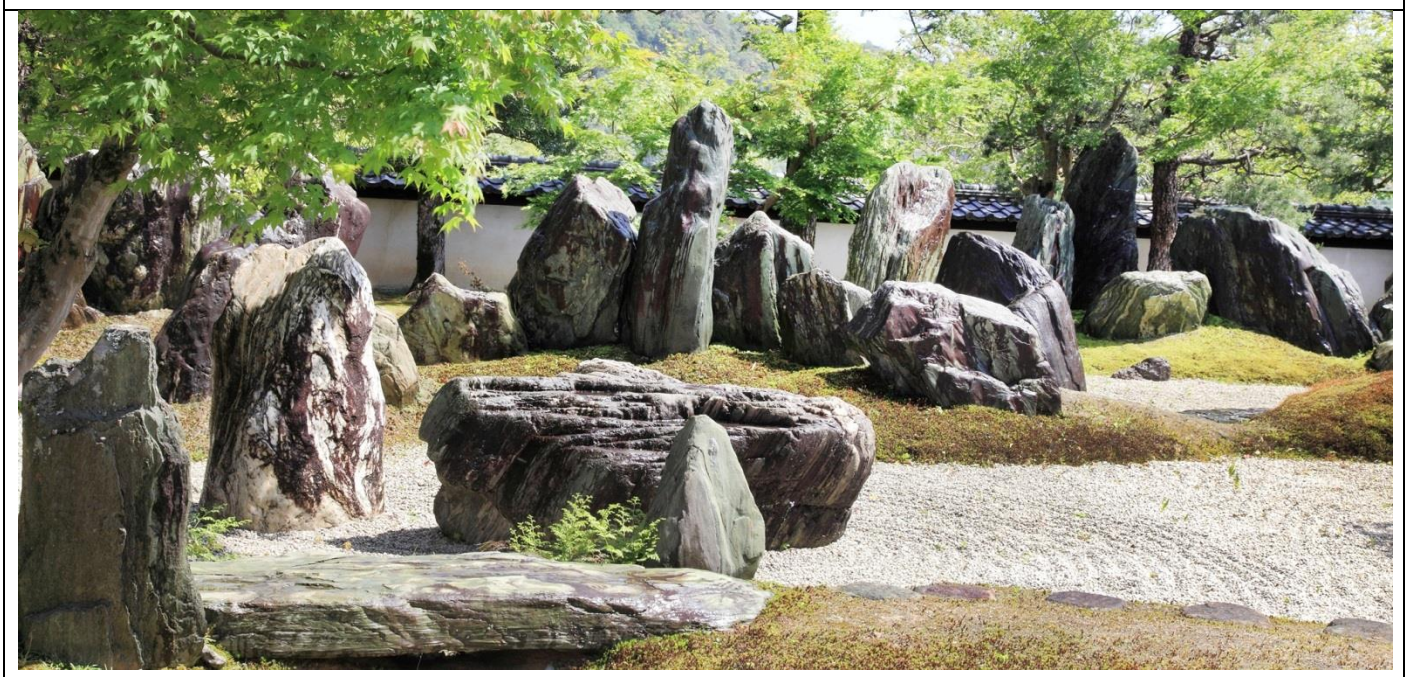
中央の白い造形は恰も大理石から掘り出した抽象化された鶴のようである。
日本庭園の伝統的手法は自然石による組み合わせであったが、白セメントでの鶴島は新しい試みだ。伝統を守るとは「伝統を打破して、伝統を超える」を実践

重森の切り絵は晩年のマチスの切り絵の感覚である。
重森のモダンな庭園はマチスやカンデンスキーの影響が考えられる.

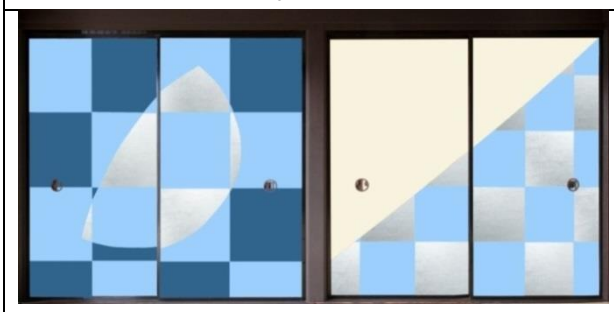
No. 79 Kokawa-ke (小河家) Family Garden

Year: 1960 Designer: Shigemori Mirei	Address: Shimane Pref. Private

“kakunen-an Garden” 個人邸庭園でこのような豪華絢爛な庭は他にない。広大な庭には巨大な青石が林立している。中央には須弥山を思わせる石組みがあり、その背後には二列の巨石群が山脈のように聳えている。一方、繊細で斬新な露地や切石の延段、竹垣、さらに邸宅の軒下には洲浜形の敷石が敷かれるなど、重森のすべての造形が備わっている。



左側石橋越しに二列の巨石群をみる。なお、書院の襖絵や繊細な露地のデザインなど、他に類型が無い創作である。



紺と銀による簡潔な模様

水屋の絢爛豪華な襖

軒下の洲浜は建築と庭園の一体化

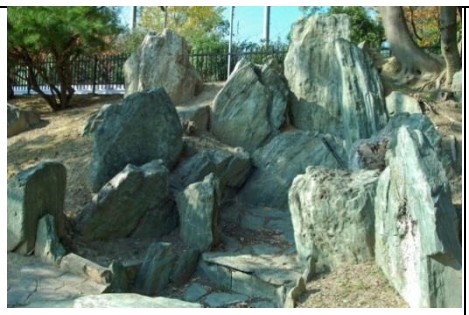
No. 80 Kōridanchi (香里団地公園) Park Garden

Year: 1961 Designer: Shigemori Mirei	Address: Hirakata City Osaka Pref. Tel: 072-841-1221 Limited Opening (Spring & Autumn)

“Irakuen Garden” 横から見ると躍動した石組み

型にはまった石組ではなく、順次瞬間的な感性に従って石組した様子が解る。

正面から見ると厳格な石組み



自由な感性で

対岸からの景

No. 81 Zuihō-in (瑞峯院) Temple Garden

Year: 1961	Address: Murasakino Kita-ku, Kyoto
Designer: Shigemori Mirei	Tel: 075-491-1454

“Dokuza Garden” 重森の理想である右上がりの造形を作ることが出来た。
テーマは禅宗の聖典『碧巌録』独座大雄による。一人岸壁で修行していると、荒波や強風、煩悩が修行者に向かって来る。始めは歯を食い縛っていたが、暫くすると「自ずと無心の境地に達していることを自覚する」を象徴したのだろうか。廊下を右に進むと造形が一変する。

海中にある石から山頂の石に向かって一直線に上る造形は悟りの瞬間のようだ。

No. 82 Kōzen-ji (興禅寺) Temple Garden

Year: 1963 Designer: Shigemori Mirei	Address: Kisofukushima-machi Nagano Pref. Tel: 0264-22-2428

“Kan-un Garden” 背後には大自然の山並みと田舎の風景がある。一方、壁の中は人工の造形である。庭の造形は自然を写してはいるが、単なる自然の写しではなく、重森の心象を通して作られた第二の自然、超自然である。木曽谷にたなびく雲海から霊峰が見える姿を象徴したであろう。

雲紋の例【See Garden No. 74 Zuiō-in Temple（85 P）】

横から見た石組みと雲紋。

鑑賞席前のテラスの造形は単純な格子模様で背後の庭園とマッチする。

重森は手製のコンパスで円弧を描いた

No. 83 Ryōgin-an (龍吟庵) Temple Garden

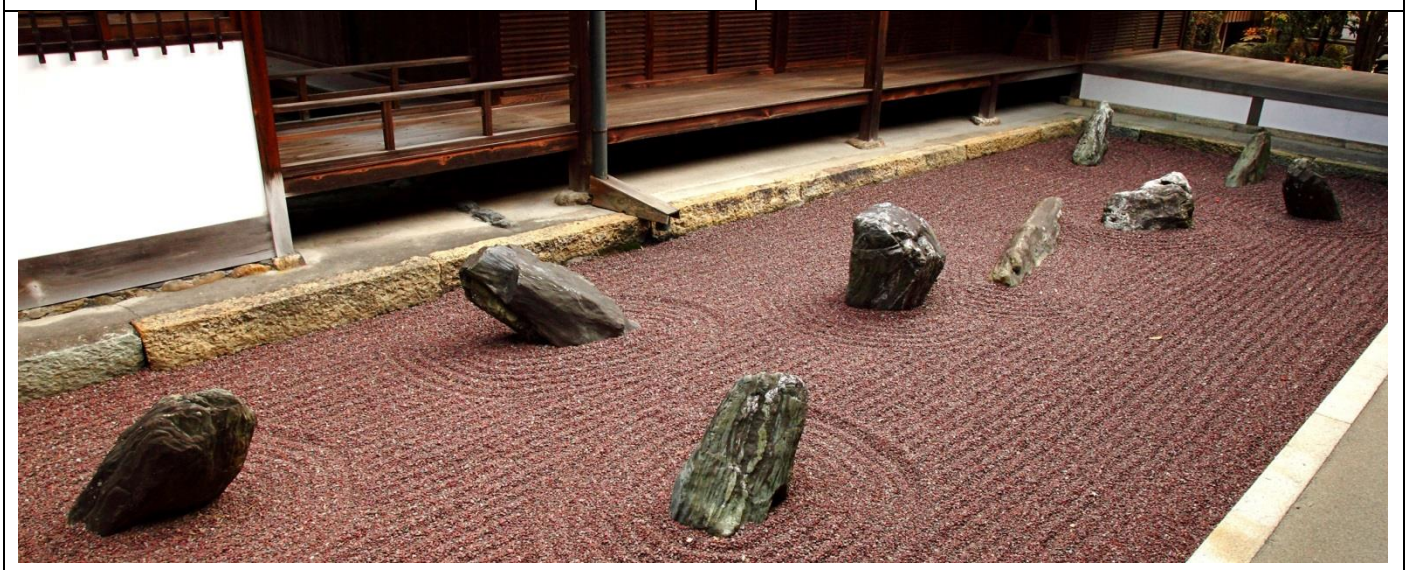
Year: 1964 Designer: Shigemori Mirei	Address: Honmachi Higashiyama-ku Kyoto City Tel: 075-561-0087 Limited Opening (Autumn Only)

“Western Garden” テーマは庵名が「龍吟庵」であるため、龍が黒雲を呼び起こし、海中から左回りに湧き上がってくる様を象徴している。

龍の頭と角の石組み。重森は「龍の頭を見ながら廊下を歩くと、龍が動くように錯覚する」と記している。

稲光

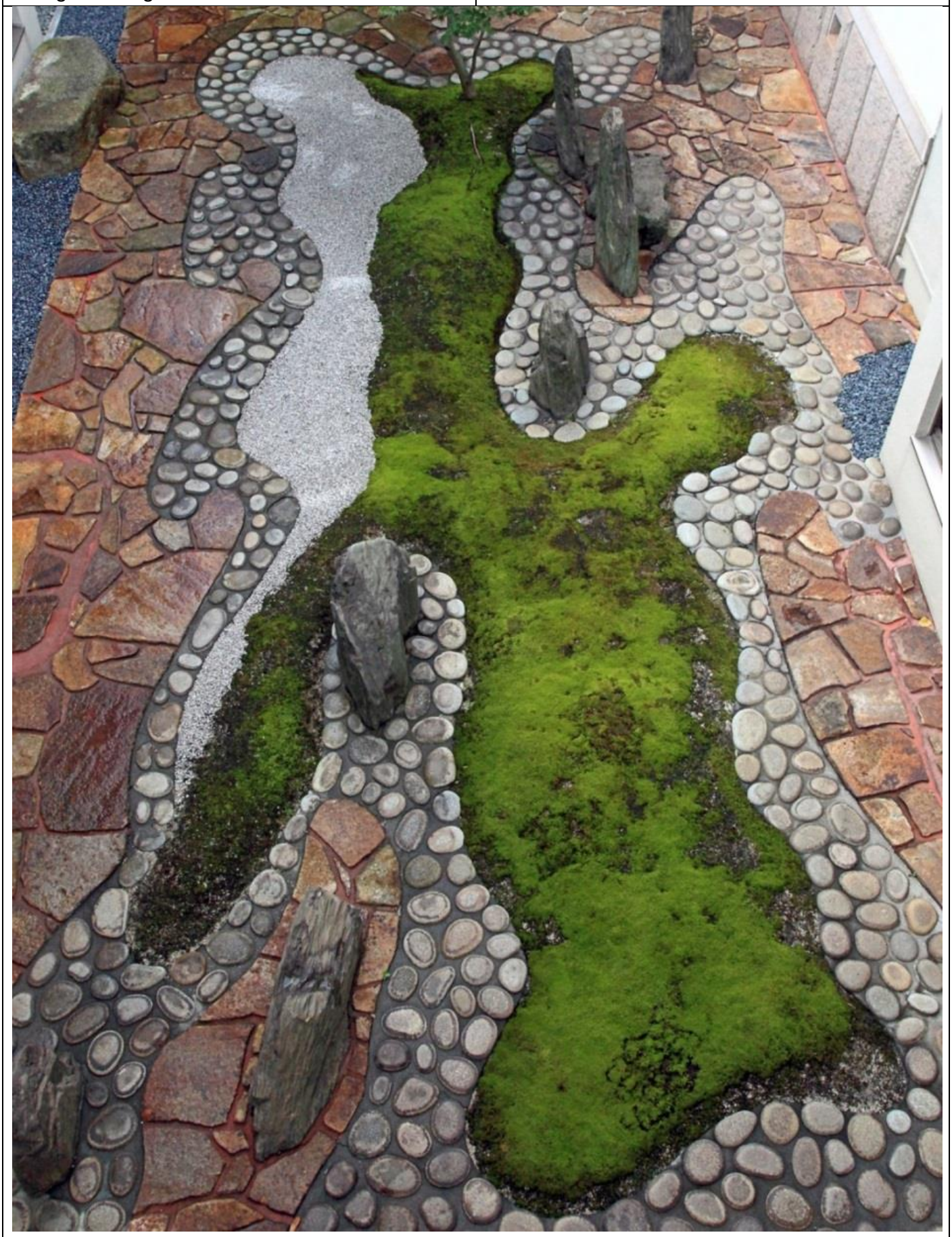
雷紋



“Eastern Garden” :大明国師の幼少時代の説話を視覚化した造形(病の国師を守る犬と襲い掛かる 6 頭の狼)

No. 84 Kiyohara-ke (清原家) Family Garden

Year: 1965	Address: Hyogo Pref.
Designer: Shigemori Mirei	Tel: Private



はたして日本庭園と云えるだろうか、もはや抽象立体絵画とも云える。対角線上にある石が配石されているのが、かろうじて日本庭園の要素を示している。この庭は 1、2 階の 3 方向からリズミカルな三重州浜が鑑賞できる。

No. 85 Kyū-Yūrin-kaikan（旧友琳会館）Garden

Year: 1969 Designer: Shigemori	Address: Kibi-chuōchō Town Okayama Pref. Tel: 0866-54-1313

“Yūrin Gaarden” 霞形の島の美しい曲線とコントラストとなる直線も重森の意図

古来の日本庭園からは逸脱していると思えるくらい、飛躍している。

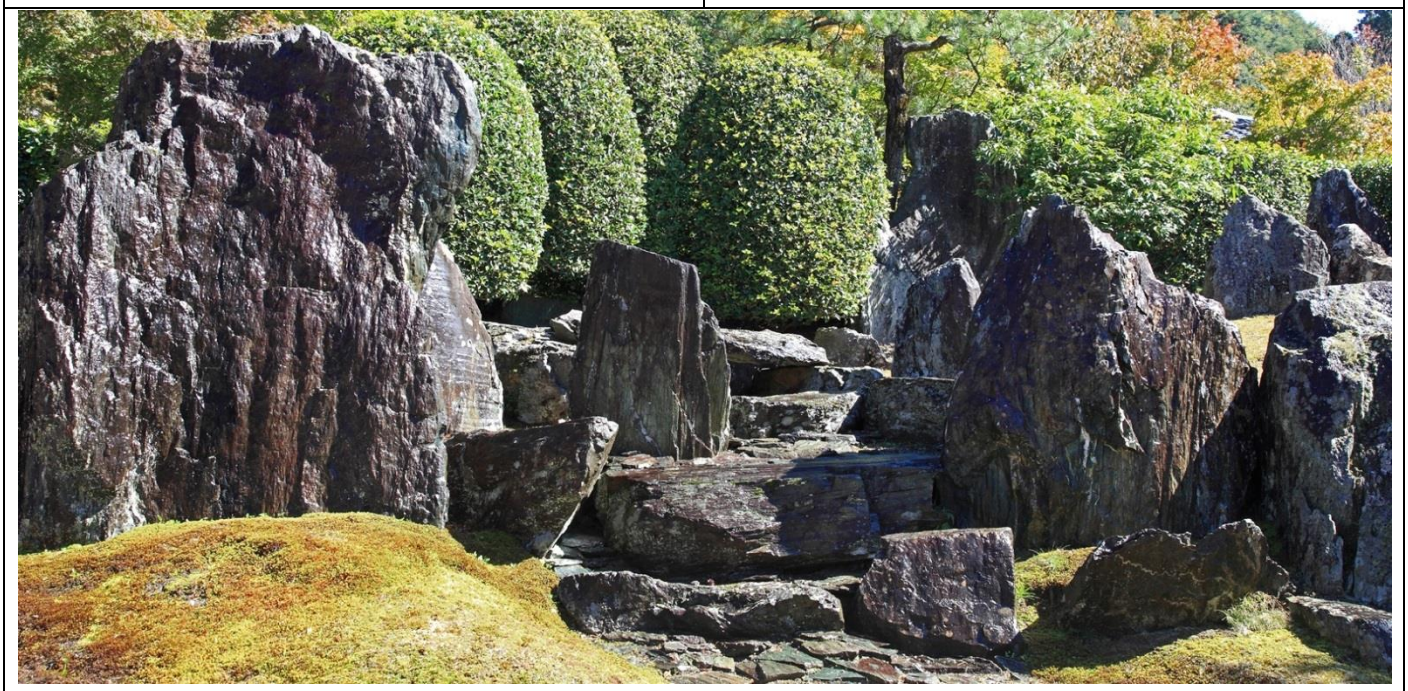
No. 86 Kanyo-ji (漢陽寺) Temple Garden

Year: 1969 & 1973
Designer: Shigemori Mirei

Address: Shūnan City Yamaguchi Pref.
Tel: 0834-68-2010

「曹源一滴の庭」から山門を望む

「曲水の庭」：禅寺で南庭に水を流すのは前代未聞



「曹源一滴の庭」：鶴・亀を思わせる巨石の造形の迫力は物凄い。これ等の造形を結んでいるのは石橋であるが、中国の「石梁飛瀑」を象徴している。また背後右の石組みは蓬莱山である。これらの象徴されている物語に捉われずに、人工の造形自身が持つ迫力を感じてほしい。

【See Garden No. 35 Nagoya Castel (43 P), No. 62 Kokawa-dera Temple (70 P)】

備考：当寺にはここに記載した四庭の他に、「蓬莱山の庭」・「九山八海の庭」がある。

「地蔵菩薩遊戯の庭」：地蔵菩薩が童との遊戯の造形は石を左に傾けて、永久輪舞させた。

「瀟湘八景の庭」：この庭の原型は東福寺の西庭である(Made in 1939)。34 年前の東福寺では狭い場所であったが、庭園に色彩を入れるべきと考えた。

No. 87 Kyū-Shigemori-ke（旧重森家）Family Garden

Year: 1970 Designer: Shigemori Mirei	Address: Yoshida Sakyoku Kyoto City Reservation Required Tel：075-761-8776

“Muji-an Garden” 重森の終の棲家の庭だ。彼が 33 年間生活した場所は道場とも云え、研究の徒が集まるサロンであった。石組は海洋に浮かぶ神仙島であるが、護岸石組が無く「完全なる脱護岸」庭園で芸術本意の庭であるである。

【See Garden No. 66 Tōfuku-ji（74P）】

書院から望む庭園

波形連子窓と網干模様の欄干

手前に巨石を置くと遠近法効果

七五三石組

No. 88 Sekizō-ji (石像寺) Temple Garden

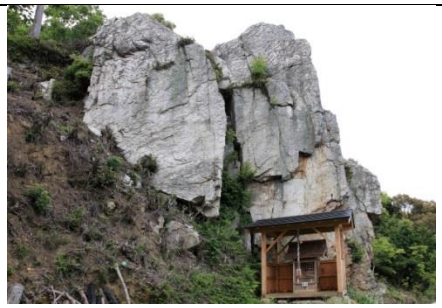
Year: 1972 Designer: Shigemori Mirei	Address: Ichijima-chō Tanba City Hyōgo Pref. Tel: Tel:0795-86-0153

“Shijinsōou Garden” 中国道教思想の「四神相応」に対応した青い龍、白い虎、朱い鳳凰、黒い亀の色で石組、延段、砂を用いた。色彩に拘った初めての日本庭園。

白い虎、朱い鳳凰

手前が龍（青色を象徴）、奥が鳳凰（朱色を象徴）。背後の竹垣には「四神」の文字を造形

手前より右回りで、朱雀。白虎、玄武、青竜を表す。

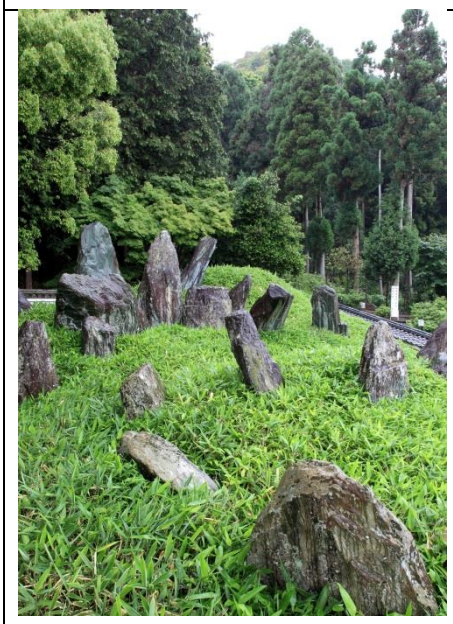


日本神道の神である磐座（いわくら）がある。

No. 89-1 Matsuo-taisha (松尾大社) Shrine Garden

Year: 1975 Designer: Shigemori	Address: Nishigyō-ku, Kyoto Tel: 075-871-5016 http://www.matsunoo.or.jp/guide03/

“Jōko Garden” この庭園の背後の山は山自体に神が宿る神聖な場所である。
よってこの庭には山上から神が降臨すると象徴される二本の立石がある。この庭は重森の遺作となり、重森の作庭家活動の総決算とも云える芸術品だ。
巨石による石組は傾斜した山裾にあり、見るものに巨石が覆いかぶさる感じがする。石組は神秘的で畏怖さえ感じる庭は、神と石と重森が一体となって完成した。重森の到達した境地は、彩色された色セメントは勿論のこと、白砂さえも無い「無技巧の技巧」の庭である。



神聖な山畔に庭がある

日本古来の神が宿る磐座（いわくら）:この庭の神秘と畏怖を感じるには、山頂にある磐座の参拝をお勧めする。

No. 89-2 Matsuo-taisha (松尾大社) Shrine Garden

“Kyokusui Garden” 傾斜面には三尊式の石組が約 10 組もあり、下部には山中から流れ落ちる霊水が曲水の造形を形成している。

神社背後の山から流れる聖水を神社の中庭に引き込み、6 本の洲浜の間を通し曲水の庭を作った。

“Hōrai garden” 「龍門瀑」の滝が勢いよく落ちる。

備考）この庭は重森没後に子息の完途氏が完成した。

No. 90 Murin-an (無鄰庵) Garden

Year: 1894－1898 Designer: Ogawa Jihei	Address: Nanzen-ji Sakyō-ku Kyoto City Web: https://murin-an.jp/en/ Tel: 075-771-3909

無鄰庵の名前は山形有朋が故郷に建てた草庵が、隣家のない閑静な場所であったことから名付けられたという。その後京都の木屋町に別荘を構え、やはり無鄰庵と号した。その後さらに現在地に大きな庭の造営に取り掛かり1898 年に完成。この庭の特徴は、東山の借景と疎水による豊かな水の流れである。全体的には借景を主体とした、穏やかな自然主義的傾向の庭である。

一番奥にある滝は醍醐寺三宝院に倣って作った。三段落としの滝は滝落ち面が右、左、右と三段になっていて、三宝院の滝そっくりの形をしているが、J. Ogawa は近代日本庭園の祖とも云え、以下の庭園は国の名勝に指定されている。
無鄰庵・平安神宮・慶雲館・対龍山荘・円山公園・旧古河庭園・清風荘

2 階から見る俯瞰写真は借景の景色が際立つ

窓越しの景色は庭園と建物が一体化して見える

No. 91 Heian-Jingū (平安神宮) Shrine Garden

Year: **1895－1916** Designer: **Ogawa Jihei**	Address: Okazaki-nishi Sakyōku　Kyoto City http://www.jonangu.com/english.html

西神苑は平安遷都 1100 年を記念して 1895 に作られた。東神苑は 1911－16 にかけて完成。

中神苑は深い池に橋杭を飛び石状に配石し「臥龍橋」によって、名所になった。

西神苑の蓬莱島（～1895）

東神苑への流れ

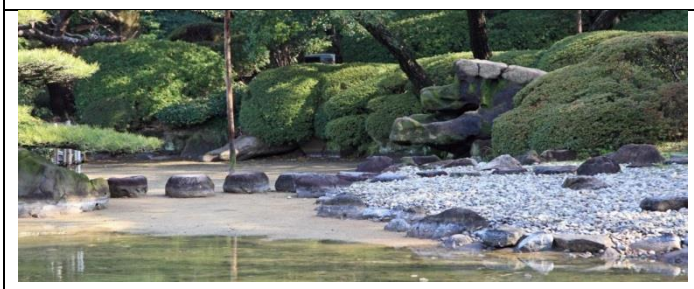
東神苑（1911-16）は泰平閣の完成によって京都の名所になった。

No. 92 Keitaku-en (慶沢園) Garden Garden

Year: 1908-1918 Designer: Ogawa Jihei	Address: Tennōji-ku, Osaka Tel: 06-6771-8401

栗石による洲浜の背後には中島が海洋に浮かぶ姿として造形されている。

巨大な滝は自然の様を写している



右側にある石は具象的な龍の頭を示す「龍頭石」である。背後には「龍尾石」もある。

中島の護岸石組はダイナミックな石組だ。灯篭は兼六公園の徽軫灯篭（ことじとうろう）を模したもの。

No. 93 Jōnan-gū (城南宮) Shrine Garden

Year: 1954－1960 Designer: Nakane Kinsaku	**Address:** Fusimi-ku, Kyoto Tel:075－623－0846

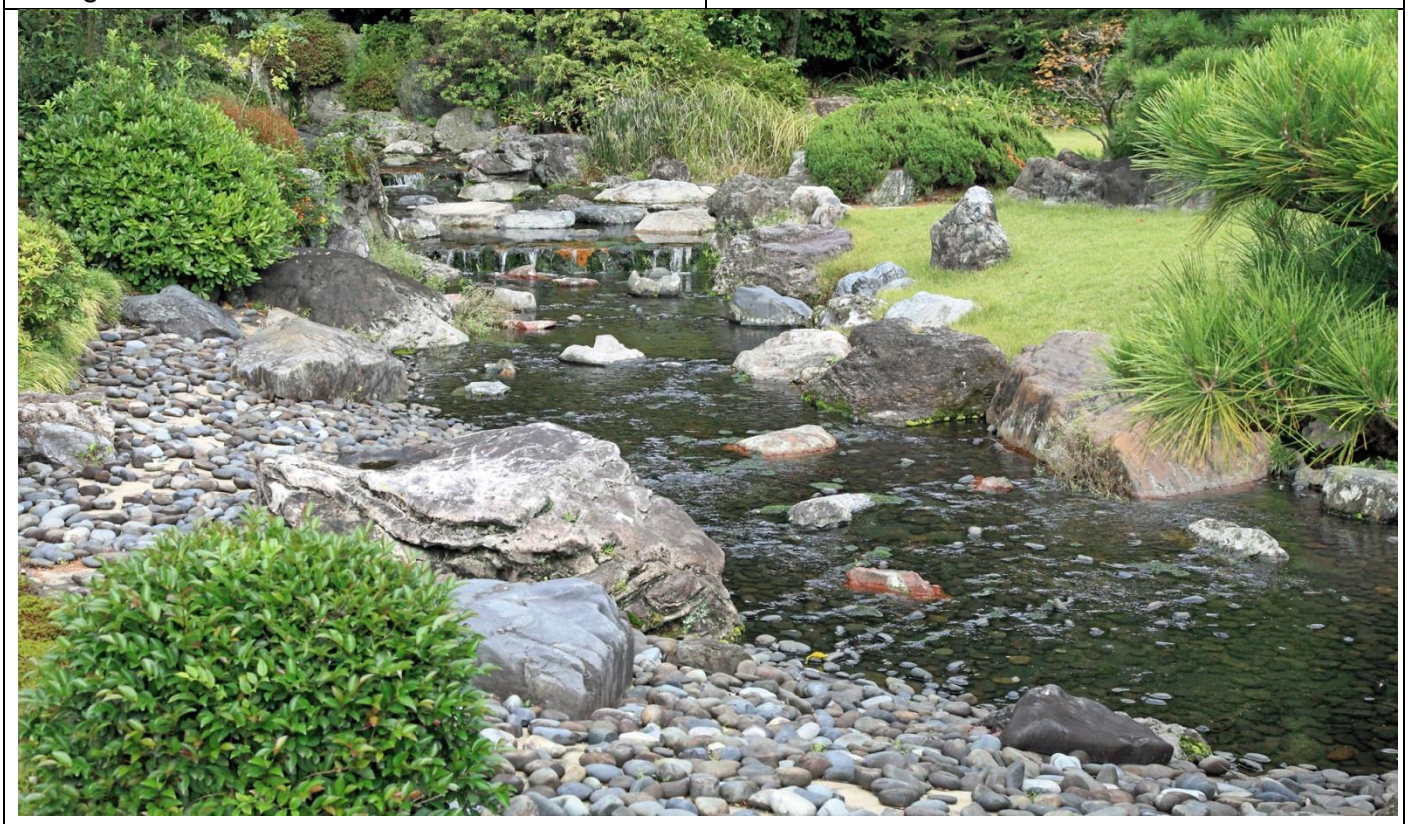
有名な曲水の宴が催される（4月29日、11月3日）。杯が流れて来るまでに和歌を短冊にしたためれば、酒を飲むことができる。上流に位置している上級者が意図的にパスをする場合を下流の初心者は「お流れ頂戴する」という。

半ば川の様な池には室町時代状の石組みがある。

木立に囲まれた低い築山上に凹凸のある石が緩やかに組まれている。

No. 94 Seiryū-en (清流園) Garden

Year: 1965	Address: Nakagyo-ku,Kyoto
Designer: Nakane Kinsaku	Tel: 075-841-0096



“Seiryū-en Garden” Nijō-jō Castle 内にある現代庭園

大きな流れを中心とする和風庭園と、芝生を主体にした洋風庭園からなっている。

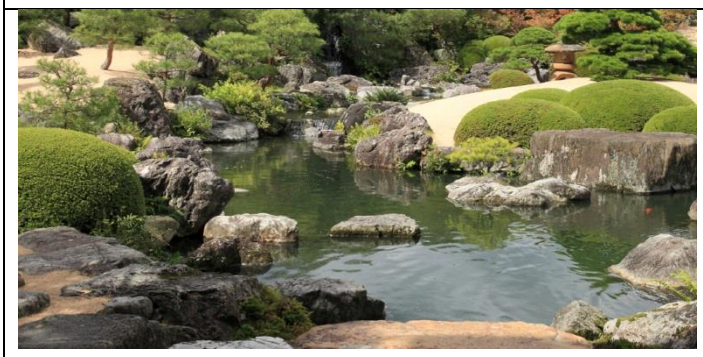
この庭の石は江戸時代の豪商である角倉家にあったもので、選び抜かれた名石揃い。

茶室「和楽庵」からの景：S 字型の護岸石組は奥行きを感じさせ、川中への配石は水の流れを自然の趣にし、奥の切石が人工の庭園であることを感じさせる。

No. 95 Adachi Museum（足立美術館）Gardens

Years: 1969-1972 Designer: Nakane Kinsaku	Address: Yasugi, Shimane Pref. Web: https://www.adachi-museum.or.jp/en/

枯山水庭：背後の山を取り込み、山からの水は枯山水の巌を駆け下り、やがて穏やかな海に流れ込む自然と一体化した壮大な庭園。



果てしない巨石の護岸

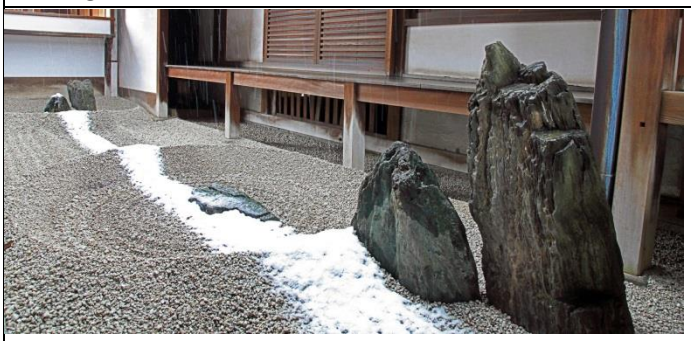
巨木越しの額縁絵画のように

白砂青松庭：背後の山の右側には 15m の滝を落とした雄大な風景

『The Journal of Japanese Gardening』では初回の 2003-2016 年まで 14 年間連続 1 位

No. 96 Ryōgen-in (龍源院) Temple Garden

Year: 1960 Designer: Nabeshima Gakushō	Address: Murasakino Kita-ku Kyoto City Tel: 075-491-7635



“Tōtekiko Garden” 極小の庭

考えさせる禅の庭

僅か５個の石で約 15 ㎡の空き地に作られた極小の庭であるが、石の選択と配置の妙が傑作を生んだ

No.97-1 Yano-ke（矢野家）Family Garden

Year: 2001 Designer: Saitō Tadakazu	Address: Tokushima Pref. Private

個人所有の庭園のため、厳しい石組造形を和らげるように、出島状の苔地の上に石組をしている。厳しい稜線の立石が作る空間構成美は不思議な温もりを感じる。

作者の作庭観：齋藤は以下のように記している「施主の人生観に沿うために、作庭現場に近いところに宿泊し、施主と身近に生活して、朝霧に花を愛でている瞬間とか、自然に対する感受性とかを知ろうとする。そのため造園を着工してもすぐに石組をするのではなく、庭木の移植とかを行い、施主の感性の資料を可能な限り集め、相当集まった段階で、材料を探し始める。材料を選定する瞬間が、施主と感性を同じくする瞬間である。材料の選定は施主の感性に照合しつつ最大限の努力を払って剪定する。」

No.97-2 Honraku-ji（本楽寺）Temple Garden

Year: 2014 Designer: Saitō Tadakazu	Address: Anabuki City Tokushima Pref. Private

見た瞬間に見入ってしまう不思議な景色だ。その理由は庭園背後の風景の美しさと、人工造形の好対照によるのであろう。石組は亀や鶴を象徴しているのだろうが、そのような詮索を拒むほど抽象化した造形である。

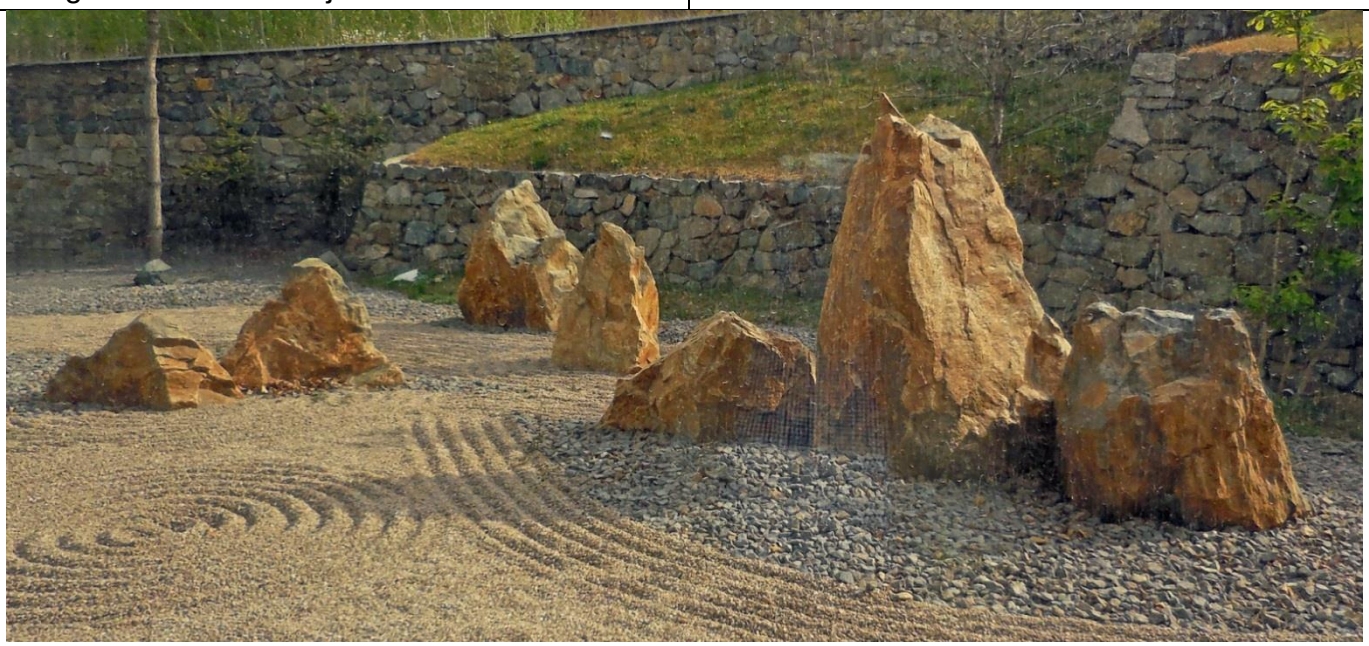
No. 98-1 Kōryū-Tei (交龍の庭) Garden

Year: 2011 Designer: Nomura Kanji	Address: Bayern Germany,Address: Bayern Germany（EU の父と言われる、リヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギーの記念公園内に作られた日本庭園）

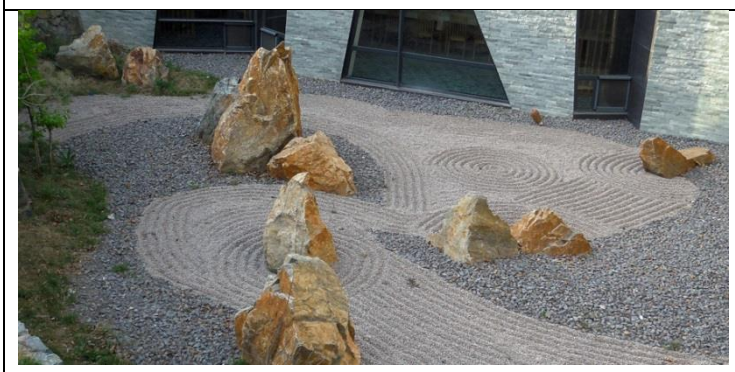
平和を願って、西洋のドラゴンと東洋の龍が交流している造形

No. 98-2 Yamato-kan Kanzan-kaku (山和館・観山閣) Garden

Year: 2014 Designer: Nomura Kanji	Address: Dairen, China Web:



室内から窓越しの景：シンプルな抽象庭園に仕上げたが、付近の採石場から好みの石を選び抜いた。



背後からの俯瞰写真で地割が解る

採石場のような荒々しく、力強い石組

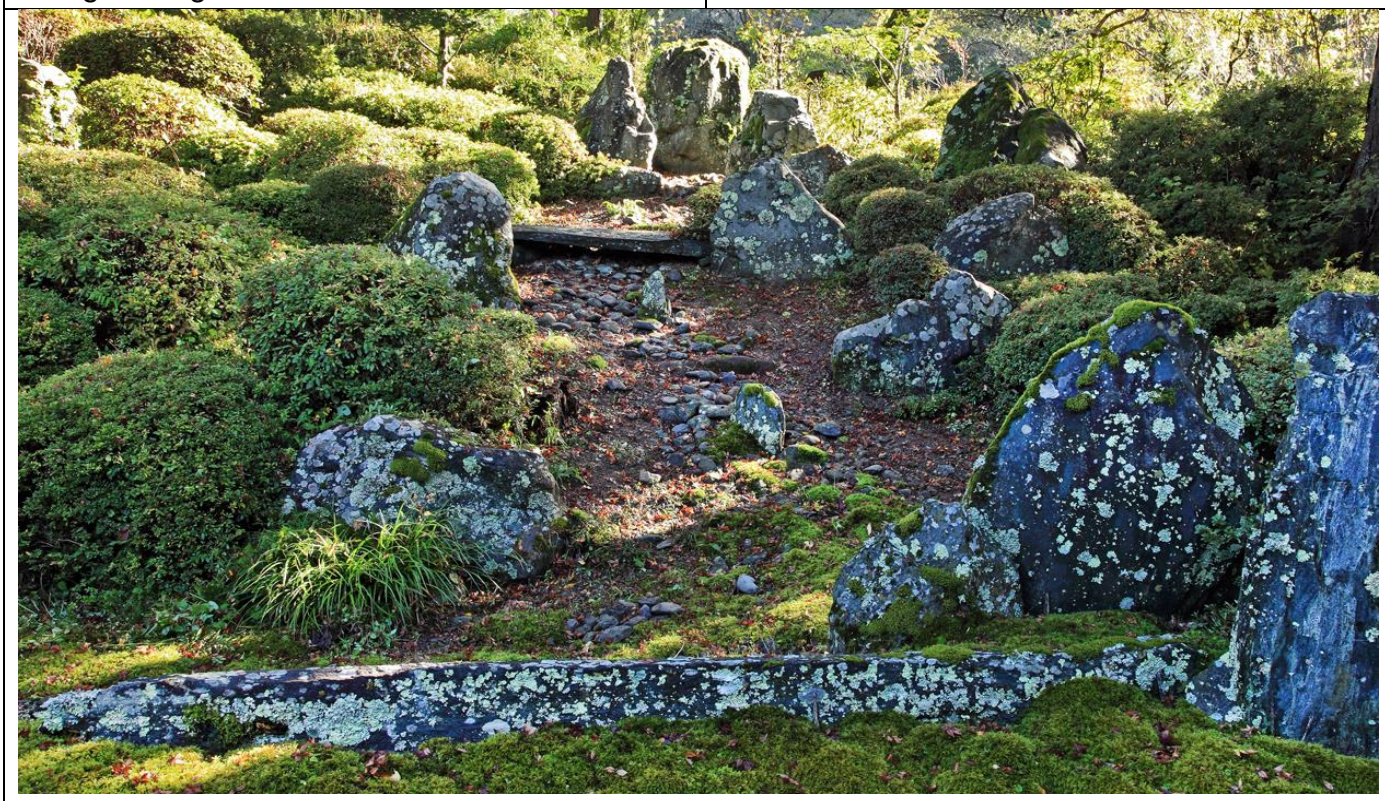
No. 99-1 Takemura-ke (竹村家) Family Garden

Year: 1975 Designer: Oguchi Motomi	Address: Nagano Pref. Private

重森三玲へのオマージュ:作者の小口基實氏は学生時代に **Garden No.68 Onohara Family (77 P)**を見て感動し、後年この庭を作った。やや傾斜した場所を活かして、自然の水を流し、爽やかな煌めきのある自然を再構築した。

No. 99-2 Onshō-ji (遠照寺) Temple Garden

Year: 1975 Designer: Oguchi Motomi	Address: Takatō-machi Ina City (Nagano Pref.) Tel: 0265-94-3799



傾斜した土地を活かした庭:本堂脇にある傾斜した場所に、現代の龍門瀑を作った。写真下部の横石は鶴の首と嘴を、二枚の立石は羽を象徴し、栗石を遡上している二匹の鯉魚竜門瀑を象徴している。

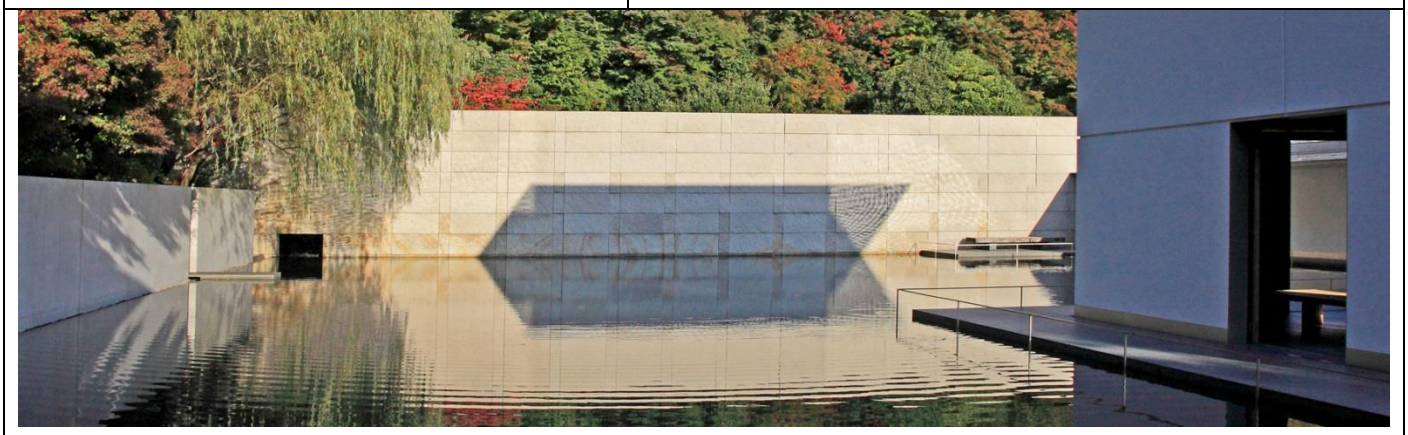
No. 100 Suzuki Daisetz Museum（鈴木大拙館）Garden

Year: 2011 Designer: Taniguchi Yosio	Address: Honda-machi Kanazawa City Ishikawa Pref. Web: www.kanazawa-museum.jp/daisetz/

“Suikyō Garden” この庭に来ると皆黙ってしまう。水面を見たり空を見たりになり、動きが無くなり空気を読もうとする。このように静かに考えさせる庭。

線と面の織り成す造形は、新しい庭

石壁はそれ自体の総計の美しさを表す。



時々跳ねる鯉の水しぶきの仕掛けによる波紋が広がり、その形が石塀に映し出される。石積みの壁は現代の石組とも云え、新たな造形を提示する。なお、水の流れるせせらぎの音も耳に心地よい。

THE ART of STONE ARRANGEMENT

100 SELECTED JAPANESE GARDENS

Author & Photographer
Nakata Katsuyasu
Cooperator
Saitō Tadakazu
Nomura Kanji
Translator
Matsugi Hiromi

Address
〒662-0826
Mobile: 090-4812-3052
E-mail: j.garden@outlook.jp
Website: http://www.musokokusi.com/

表写真：Kishiwada-jō Castle
裏表紙：Tōkai-an Temple
印刷：2018/10/25
非売品

.Tōkai-an